I am Jazz!（ジャズ・スーパー列伝）

ジャズの発展に貢献し、その歴史に名を刻んだ名プレイヤーたち。その人生は、楽器が異なる如く千差万別。このコーナーでは、そんな個性的なジャズマンたちの功績を称え、生き様を紹介することで、より多くの人々にジャズの素晴らしさを伝えていきたい。

Vol. 49
Buddy Rich【バディ・リッチ】
～スピード、テクニック、パワー、スウィング感を備えた超人ドラマー～

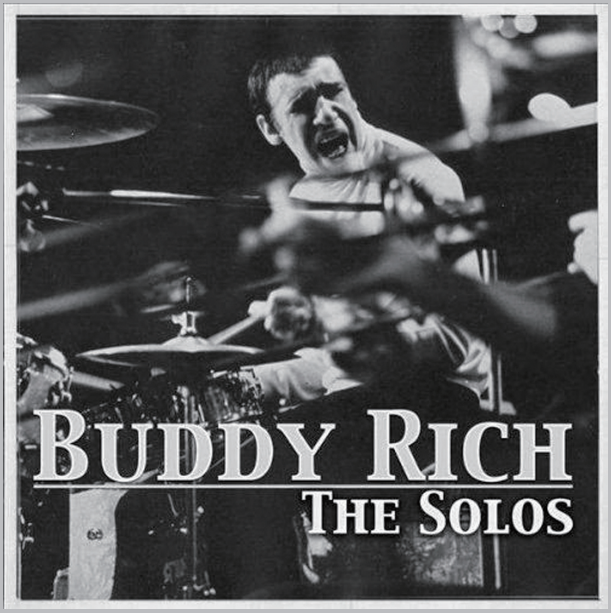


Photo : "The Solos" ／ Buddy Rich（Lightyear : LTY-54932）

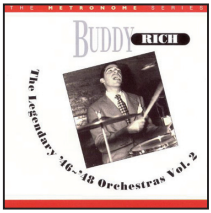
Profile

1917 年 9 月 30 日、米国ニューヨーク州ブルックリンに生まれる。本名は Bernard Rich。ヴォードヴィリアンだった親を持ち、1 歳よりドラムスティックを握り、僅か 1 歳半でヴォードヴィルにて演奏し始めたと言われる。タップダンスでも非凡な才能を見せ、4 歳の頃にブロードウェイのミュージカルに出演を果たし、11 歳でバンドリーダーとしてもコンサートを行う。37 年にジョー・マーサラ楽団に加入。その後も数々のビッグバンドで天才的なプレイを披露した。40 年代にかけてはバニー・ベリガン、アーティ・ショウ、トミー・ドーシー等のバンドで活躍。50 年代にはハリー・ジェイムス楽団等で活躍。59 年に突如、心臓発作に見舞われて入院を余儀なくされた。ドラム演奏に関してドクターストップがかかっていたものの、退院後まもなくして演奏を再開した。66 年からは自己のバンドを率いて活動し、晩年までドラマー兼バンドリーダーとして大活躍した。70 年代にはファンク色の強いサウンドで、ジャズ・ファンクやレア・グルーヴのファンからも高い人気を獲得。抜群のスピード、テクニック、パワー、スウィング感だけでなく、ステージ上でのエンタテインメント性も兼ね備え、“ 米国が生んだ今世紀最大の白人ジャズ・ドラマー ”、“ 世界最高のドラマー ” 等と称されて人気を博した。生涯 40 作以上のリーダー・アルバムをリリースした。1987 年 4 月 2 日、悪性脳腫瘍の手術に続いて発症した心不全により、米国カリフォルニア州ロサンゼルスにて死去。享年 69 歳。遺体はロサンゼルスに佇むウェストウッド・ヴィレッジ・メモリアル・パーク墓地に埋葬された。その死後もジャンルを超えて数多くのアーティストやドラマーに影響を及ぼし続けている伝説のジャズ・ドラマーのひとり。

BR's Great Album

ここに紹介した 3 枚のリーダー・アルバム以外にも、40 作以上のリーダー・アルバムが残されており、その数の多さだけでも超人。様々なアルバムを体感して欲しい。

若きバディ・リッチが率いた40年代のビッグ・バンド音源作品



ザ・レジェンダリー（1946-1948）
バディ・リッチ
（Hep：HEPCD-56）[Import CD]

バディ・リッチ (ds)、他

1. リラクシン・アット・カマリロ 2. チェルシー・ブリッジ 3. エクリプソ 4. ビーツ・アップ 5. スカル・ブラザーズ 6. リトル・ロック (他、全 12 曲）

ビッグ・バンド・ジャズの真髄が聴けるバディ・リッチの傑作

ザ・ロアー・オブ・74'
バディ・リッチ
（P-VINE：PCD-18705）

バディ・リッチ (ds)、チャーリー・デイヴィス、ラリー・ホール、グレッグ・ホプキンス、ジョン・ホフマン (tp)、他

1. ナットヴィル 2. キリマンジャロ・クックアウト 3. ビッグ・マック 4. バックウッズ・サイドマン 5. タイム・チェック (他、全 8 曲）

バディとメイナード・ファーガソンによる豪華＆ド派手な名アルバム

ウェスト・サイド・ストーリー＆アザー・デライツ
バディ・リッチ＆メイナード・ファーガソン
（Lester Recording：LRC-20029）[Import CD]

バディ・リッチ (ds)、メイナード・ファーガソン (tp)、他

1. ウェスト・サイド・ストーリー 2. キリマンジャロ・クックアウト 3. プレリュード・トゥ・ア・キス（他、全 9 曲）

1946、1947、1948 年に 30 歳前後の若きバディが率いた自身のビッグ・バンドのそれぞれ 3 つの期間にラジオ放送用に収められた音源 21 曲を収録。1 曲目のバディのオリジナル「レッツ・ブロウ」から、バディのドラムの存在感が際立ち、ビッグ・バンドが華やかだった時代を感じさせる。当時から既にドラマー兼バンド・リーダーとしての貫録や風格も漂っているが、60 年代以降の超人ドラマーへとばく進する前のプレイも粋。

“74 年の咆哮／轟音”という意味になるだろうか。1973 年録音された作品で、オープニングのホレス・シルヴァー作「ナットヴィル」からバディのドラムを核にグルーヴ＆スピード感、ノリが凄まじい。カーレースに挑もうとするバディの雄姿を捉えたジャケット写真も奇抜で 70 年代の雰囲気。全 8 曲怒涛の如く突っ走るバディ親分の気合が充満。“バディ・リッチの最高傑作”とも称され、ビッグ・バンド・ジャズの真髄が体感できる名盤。

バディとトランペッターのメイナード・ファーガソンの共同名義でリリースされた映画『ウェスト・サイド・ストーリー』で使用されたナンバーを中心に全 9 曲を収録。総勢 30 名以上のアーティストが参加しており、ジャズマンがカヴァーした『ウェスト・サイド・ストーリー』の作品としては、オスカー・ピーターソン・トリオのアルバムが有名だが、こちらも負けず劣らずの名作。バディのドラム・ソロにメイナードのソロも素晴らしい。

プライベートもパワー全開！

1 歳よりドラムスティックを握り、僅か 11 歳でバンドリーダーとしてコンサートを行ったというエピソードだけでなく、1959 年、40 代前半の頃に突如、心臓発作に見舞われ入院し、ドクターストップがかかっていたにも関わらず、退院後まもなくしてドラム演奏を再開するという破天荒振りも見せている。また、空手も 4 段の腕前だったらしく、海兵隊では空手のインストラクターを務めていたと語られており、原因は不明だが、ステージ上でフランク・シナトラと喧嘩する等、パワフルで凄みさえ感じるドラムプレイだけでなく、その性格も過激だったようだ。

映画『セッション』

2014 年にアメリカ合衆国で製作された監督・脚本デミアン・チャゼル、主演はマイルズ・テラーが務めた映画『セッション』は、第 87 回アカデミー賞で 5 部門にノミネートされ、助演男優賞を含む 3 部門で賞を受賞する等、世界中で大きな話題となった。この映画こそバディ・リッチに憧れ、バディ・リッチのような偉大なジャズ・ドラマーになることを目指す若者を描いた作品だ。バディ・リッチ本人も自身のバンドの若いメンバーがミスしようものなら、容赦なくドラム・スティックを投げつけたと言われている。ジャズ＆音楽ファン必見の映画です。

Jazz Standards（ジャズ名曲列伝） Vol.22

~ Smile【スマイル】~

この曲は 1936 年のチャップリンの映画『モダン・タイムス』のテーマ曲で、チャップリン本人が作曲。1954 年にジョン・ターナーとジェフリー・パーソンズが歌詞とタイトルを付けた。ナット・キング・コールがカヴァーして、1954 年にチャートインして以降、ジャズ・ミュージシャンだけでなく、マイケル・ジャクソンやエリック・クラプトン、ロッド・スチュワート等も含め、ジャンルを超えて数多くのアーティスト達にカヴァーされ続けており、名スタンダードとなっている。

★ この名曲が聴けるお薦めのアルバム

ナット・キング・コール『ベスト・オブ・ナット・キング・コール ~L.O.V.E.』
チック・コリア『エクスプレッションズ』
ジミー・スコット『ムード・インディゴ』
ウォルター・ラング・トリオ『スマイル』
松田聖子『SEIKO JAZZ』